



学校だより



2023年 9月29日

No. 487

横浜市立下野庭小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shimonoba/>

おんぶされる子どもの心が描かれています

～『てんごく』（新美南吉詩 長野ヒデ子絵 のら書房）より～



校長 黒木 英晴

9月に入っても一向に涼しくならず、外での体育ができない日が下旬まで続きました。体調を崩す児童も多く、心配な9月となりました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋などと言われますが、季節の良い秋が短くなっているのではないかと思います。10月には、2年生4年生の校外学習、5年生の愛川宿泊体験学習、6年生の日光修学旅行、四年ぶりに行われる「しものぼっ子まつり」などの行事がたくさんあります。みんなで協力して楽しく思い出に残る活動になることを願っています。引き続き、本校の教育活動に対してご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

9月10日（日）に行われた「ベトナムフェスタ in 神奈川」における「紙芝居」のコーナーで絵本作家の長野ヒデ子さんから新たに書かれた『てんごく』という本を紹介していただきました。「天国」という詩は、1931年（昭和6年）ごろ、手紙に書かれて当時は発表されなかつたようですが、この新美南吉の詩に新たに長野さんが絵を描き、今年の5月に出版された絵本です。新美南吉は、「天国」をどのようにとらえているのでしょうか。詩を紹介します。

「天国」 新美 南吉

おかあさんたちは みんな一つの、天国をもっています。どのおかあさんも どのおかあさんももっています。それはやさしい背中です。どのおかあさんの背中でも赤ちゃんが眠ったことがありました。背中はあっちこちにゆれました。子どもたちは おかあさんの背中をほんとうの天国だとおもっていました。おかあさんたちはみんな一つの天国をもっています。

長野さんはあとがきに次のように書かれています。「新美南吉が書いた『天国』の詩の中では、おんぶされる子どもの心が描かれています。おんぶすると、お母さんのあたたかさが子どもに伝わります。おとなは、おんぶしながらいろいろなことをすることができます。子どもたちは、背中からおとながやることを見て、たくさんを学んでいるのです。（中略）幼い時にお母さんをなくした南吉は、『お母さん』という存在を作品に描き続けてきた人でしたから、きっとこの時代の流れ（戦争）に心を痛めて、お母さんたちがあるがままでいてくれるだけで子どもたちにとっては天国なのだという、この詩を書いたのだと思うのです。」

変化の激しい時代の中で何を大切にしていくのか、教育者として日々悩んでいるわけですが、その答えは子どもが教えてくれていると考えています。先日の代表委員会では読書月間に行う「秋の大図書祭り」のほんつくーの内容について話し合いをしました。また、図書ボランティアでは「はまっこ読書の日」に向けて特別読み聞かせの会の準備をしてくださっています。長野さんが南吉の思いを受けとめ絵本にしたように、子どもたちが学びの中でそれぞれの人の思いを受けとめ、そこから自分たちができることを考え、夢や目標にチャレンジしていくことがより良い社会の創造へとつながっていくと考えています。今、4年生では新美南吉の『ごんぎつね』を学習していますが、新美南吉が生まれた愛知県半田市には新美南吉記念館があり行ってみたいとなりました。その記念館は「ごんぎつね」の舞台となった里山がイメージされているそうです。暑い夏から読書の秋へと下野庭小学校全体が包まれていくと良いなと思います。4年生が丹精込めて育てていたゴーヤの写真が横浜市の広報誌の港南区版で紹介されています。

マーチングバンドの様子

日頃よりマーチングバンドの活動へのご理解・ご協力をありがとうございます。9月23日（土）に、秋葉台体育館で行われたマーチング祭に出場してきました。その結果、小学生の部で1位を受賞することができました。これを糧に、10月22日（日）の神奈川県大会でも演奏・演技を披露してまいります。今年度も全国大会出場を目指して努めていきますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。



《10月の活動予定》

10月22日（日） 神奈川県大会（秋葉台文化体育館）

